

ポスターセッションで話し合おう (4年)

広がる話し合い——バリアフリーについて考えよう

●指導目標

- ◎調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気をつけて聞いたりすることができる。
- ◎互いの考えの相違点や共通点を考えながら、すすんで話し合うことができる。
- ◎書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。

●単元について

4年生は、低学年の自己中心的なものごとをとらえる時期から他人の立場になって考えられるようになる、ちょうど移り変わりの時期である。このような発達段階にある子供たちが、立場を変えてものごとをとらえることを具体的に学ぶことは、自分とは違う立場の人を思いやる「共生」の視点を育てるきっかけとなるであろう。ぜひとも総合的な学習の時間と関連させて、十分に体験したり人とのかかわりを深めたりしながら、学習活動を進めていきたい。

本単元につながる総合的な学習の時間の内容例として、次のようなことが考えられる。

歩行中の高齢者の事故が多いことを資料などから知り(東京都内のある区の交通安全ニュースでは、自転車の事故とならんで最も多いと伝えている)、それはなぜか予想する。高齢者疑似体験をとおして、なぜそうになってしまうのかを身をもって知る。バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を知り、身のまわりにどんな施設・設備・製品があるか調べ、それらの利用者および設置者・製作者に話を聞く。自分たちにできることを考え、高齢者との交流につなげていく。

各区市の社会福祉事業団やボランティアセンターなどに問い合わせると、いろいろな情報を得ることができる。また、ショールームやモデルハウスなどで、バリアフリーについて扱っているところがある。ユニバーサルデザインについては、インターネットでどんな製品があるかなど知ることができる。

■■■■参考■■■■

〈バリアフリー〉

高齢者や障害者が生活していく上での障害(バリア)をなくすこと。怪談などの段差のスロープ化がその例。(新世紀ビジュアル大辞典 学習研究社)

2000年5月には交通バリアフリー法が成立した。駅や空港・バスなどのターミナルを新設または大改造する場合、エレベーターやエスカレーター・スロープ・手すりを整備すること、バスを新規発注する時は低床化することなどを義務づけた。既存駅のバリアフリー化は努力義務。住宅の段差解消などは介護保険で一定の改修費用が支給されることになった。(知恵蔵 朝日新聞社)

〈ユニバーサルデザイン(共用品 UD)〉

空間作りや商品のデザインなどに対し、だれもが利用しやすいデザインを初めから取り入れておこうとするもの。1970年代にアメリカで始まった。

- ・さわっただけで識別できるように工夫された容器、文房具
- ・握力が低下した人でも利用しやすい道具
- ・障害者、高齢者でも着やすく使いやすくデザインされた服
- ・あまり腰を上下させないで乗り降りできる自動車
- ・障害者等が持ち歩くとエレベーター前で音声ガイドを開始させたりドア開閉速度を変更させたりできる「知的データーキャリア」[DC]
- ・車いすでも利用できるタクシーやパック旅行の企画 (imidas 集英社)

●学習指導計画(全17時間)

展開・時	学習活動	留意点
第一次 ・ 8時間	○単元全体の学習内容を知り、学習計画を立てる。(0.5)	○「便利」ということについて学習し、身のまわりのことについて調べ、ポスターセッション形式の発表会を行うことを知らせる。
	○便利だと思うものや不便に感じていることを見つけて発表し合う。(1.5)	○身のまわりの便利なことや不便なことに目を向けさせる。
	○『「便利」ということ』を読み、感じたことをノートにメモして話し合う。(1) ○筆者が言いたいことをまとめながら読み進める。(3)	○次の観点で感想を書かせる。 ・初めて知ったこと・驚いたこと ・筆者が大事だと訴えていること ・「便利」ということについての自分の考え
	○筆者の言いたいことを見出しにしてポスターを作る。(2)	○てびきの観点にもとづいて読み取らせる。 (具体例・何の例か・改良の考え方) ○前時のまとめをもとにポスターを作らせる。
	○作ったポスターをもとに、グループで話し合う。	○話し合いの観点を示す。(わかりやすい・見やすい・効果的など)
第二次 ・ 9時間	○「バリアフリー」という考え方について知り、自分が調べてみたいテーマを決める。(2) ・どこで何が調べられそうか、知っていることを発表する。	○資料を手がかりに考えさせる。 ・教科書の例(できれば実物) ・営団地下鉄の小冊子 ・市報や交通安全ニュース ・ユニバーサルデザインの製品など
	○調べる(総合) ・調べたい内容とその方法を考える。 ・役割分担をする。	○調べる観点を明らかにさせる。 ・だれにとって便利なのか。 ・どんなときにどんなふうに便利なのか。 ・実際に利用している人の数や声
	○テーマに基づいて調べたことをもとにポスターを作る。(3) ・自分の分担部分を、わかりやすく伝える方法を考えて書く。	○ポスターにまとめることについてイメージをもたせる。 ・P78のほかの工夫 ・悪いポスターの例を示す など
	○発表の練習をする。 ・ポスターに書いたことと口頭で発表することを考慮して発表メモを作る。	○調べたことや考えが聞き手にわかりやすく伝わるように工夫させる。
	○ポスターセッション形式の発表会をし、評価カードや感想を書く。(2)	○ポスターは事前に掲示しておく。 ○グループを前半と後半に分ける。

●本時の展開(本時14／17)

目標

- ・ポスターを利用して筋道をたてて説明するための発表メモを書くことができる。
- ・発表メモをもとに、よりわかりやすく伝わるように工夫して話すことができる。

●展開例

過程	学習活動	指導上の留意点
であう	1. 調べたことやポスターに書き表したことをもとに、発表したいことを書き出す。	○ポスターに書いたことをそのまま読むのではないことを知らせる。
まなぶ	2. 聞き手がわかりやすく、筋道の通った説明にするにはどうすればよいか考える。 ・初めに全体の要点を述べてから説明する。 ・内容説明の順序を考える。 ・最後に、結果からわかったことや自分の考えを話す。	○例を示して、わかりやすさや筋道の通った内容とはどういうものかを実感させる。 ・ある児童が「であう」過程で書き出したものをもとに担任が「発表」し、よい点や改善点を考えさせる。 ・「指導書ワークシートを生かした学習指導細案」P209の文例などを示す。
いかす	3. 発表メモを書く。	○発表時にメモをそのまま読んでしまわないように、ポイントのみ書かせる。また、「グラフを指さして」「実物を見せて」など、動作などについてもメモしておくといよいことを伝える。
	4. グループ内でお互いに聞き合いながら発表の練習をする。 (グループ全体をととしての発表メモ作成・練習については次時に行う。)	○聞き合うときの視点を示す。 ・発表の内容や言葉はわかりやすいか。 ・ポスターを効果的に利用しているか。 ・話し方(速さ・声の大きさ・間の取り方・抑揚・目線・動作) ・伝えたいことがわかったか。 ・付け足したり省いたりしたほうがよいことはないか。 ○なるべく、互いのグループの声が気にならない練習場所を確保する。
本時の評価 ○ポスターの自分の分担部分について、筋道をたててわかりやすく説明するための発表メモを書くことができたか。 ○発表をよりよいものにするために、意見を出し合い、練習していたか。		